

# 生徒指導の機能をいかす学級活動指導案

2年

## 1. 活動名

「がんばったかかりかつどう」

## 2. 指導観

### (1) 児童について

1年生の係は、先生のお手伝い的な係をしてきており、1学期もそのような係を続けていた。そのため、日常の学校生活でよく気づく子どもが自主的に多く活動し、子どもたちの協力することは少ないように思えた。そこで2学期からは子どもたちが話し合って活動を計画するようにした。

2学期当初、子どもたちは1学期の経験から話し合わずに係活動を始めようとしていた。そこで2学期からは「係で話し合ってクラスに必要なことや楽しいことを自分達で話し合って決めること」を伝えた。始めは、話し合い方が分からなかったり、何をしてもよいか分からなかったりするが、教師が話し合い方を教えるなどの支援と係活動を繰り返すことで徐々に子どもたち自身で楽しみながら活動できるようになってきた。そのような中、係として、クラスのみんなに協力してほしいことなどを教師に言うようになってきた。

そこで、自分たちのがんばりだけでなく、係活動はクラスのみんなが協力することでよりよくなることに気づかせたい。

### (2) 教材について

2学期からの係活動は4～5人の人数で行うようにし、話し合う中で子どもたちが自分の考えを出しやすいようにしている。その中で、活動内容や分担などを決めていくのでお互いの話を聞いたり自分の役割を責任を持って活動する場面がある。

また、係活動でクラスに必要なことや楽しいことをするというを目的にするので、係がクラスのみんなに提案することが多くなるため、そのことに対して子どもがどのように行動したらよいかを考える機会が多くなると考える。

このことを経験した2学期の終わりに、子どもたちががんばったことをお互いに認め合い、クラス全体としてどのようにして係に協力していけばよいかを考えることは、「お互いに尊重し、傷つけない」という規範意識を高めていく上で意義がある考える。

### (3) 方法について

事前に、2学期の係活動の自分や友達のがんばったことやクラスのみんながこうしたらよくなるということを具体的に想起できるように教室に掲示している係の活動を見ながら、振り替りカードに書かせるようにさせる。

そのことをもとに、自分や友達のがんばりを発表していくが、みんながこうしてくれたらよかったということは、クラス全体のこととしてとらえさせるために、子どもからの発表だけでなく多くの子ども達が考えていることを教師が整理して伝え、そのことをから子ども達にこれからどうしたらよいかを考えさせるようにする。

## 3. 活動目標

- 2学期の係活動を振り返り、自分や友達のがんばったことを発表する。
- 2学期の係活動で、こうしたらもっとよくなることを知り、3学期の活動につなげるようにする。

## 4. 生徒指導の視点に立った活動の工夫

- (自己存在感)
  - ・ 係活動の自分のがんばりを振り返ったり友達からがんばったことを認められるたりすることにより、クラスの役に立ったという有用感を感じさせる。
- (共感的人間関係)
  - ・ 友達のがんばりを発表し、友達のよさを認め合う相互評価の場面を設定する。
- (自己決定)
  - ・ こうしたらもっと係の活動がスムーズに行えるということを提示することで、今までの自分を振り返り、これから気をつけることを考えるようにする。

## 5. 指導計画

活動のねらい	学習活動と内容	教師の支援
1, 2学期の係活動について知り, 係を決める。(9月上旬)	○2学期の係をの仕方を知り, 子どもの係を決める。	○子どもに意欲を持たせるために子どもの希望をできるだけ聞く。
2, 話し合いの方法を知り, 係の活動内容を決める。(9月上旬)	○係ごとに活動の内容を話し合う。	○色々な活動が考えられるように, 教師が活動の例を提示する。 ○お互いの考えを知るために十分聞き合うようにさせる。
3, 子どもたちの計画した活動を行うようにする(9月~12月)	○2学期を通して活動を行う。 話し合った内容 ・けいじ係 みんなにイラストを描いてもらってはる。 ・あそび係 木曜の昼休みにクラスで遊ぶ。 昼休み他のクラスと遊ぶ。 ・おとしもの係 名前を書こうキャンペーン ・せいり係 引き出しをきれいにしようキャンペーン ・ほけん係 まどをあけようキャンペーン ・きゅう食係 1時5分に食べおわろうキャンペーン ・図書係 図書まつり(好きな本のしょうかいカードをかいてもらう)	○係活動の時間をできるだけ月に一回設ける ○係の活動が十分できるように, 方法, 必要な道具などを子どもに話し合わせる。 ○必要なら教師が方法をアドバイスし, 道具などを用意する。 ○活動に無理がある場合などは子どもたちに話し合わせて, 計画を変更させる。
4, 2学期の係活動を振り返る。(12月中旬)	○「がんばったかかりかつどう」	○係の活動を振り返れるように事前に振り返りカードを書かせる。

## 6. 本時 平成19年12月

### 7. 本時目標

- 2学期の係活動を振り返り、自分や友達のがんばったことを発表する。
- 2学期の係活動でこうしたらもっとよくなることを知り、3学期の活動につなげるようにする。

### 8. 規範意識を高めるための本時授業の工夫

#### ○規範意識を高めるための本時の価値

本時の活動内容は、2学期の係活動を振り返ることが目的である。係活動は、子ども達が話し合っ活動内容や役割を決めているので、様々な場面で子ども自身が自己決定し行動している。また、係の活動はクラスのみんをを対象にして行うことであるため、活動していない係の子は活動している係に協力するという場面が生じる。係活動の振り返りカードには「クラスのみんがこうしてくれたらよかったな」という項目があり、子ども自身がクラスに一員としてどのように行動したかということも係活動に関わる自己決定の要素と言える。

規範意識は「自他の生命や権利の尊重、自他を心身共に傷つけない」ということから、友達の係としての働きかけにどのように行動していけばよいかを考えることは、規範意識を高めていくことにつながっていくと考える。

#### ○自己存在感を持たせるための工夫

事前の係活動の振り返りカードで、「自分のがんばったこと」「友達のがんばっていたこと」を書かせている。このことを本時の中で発表するようにする。そのことで、自分の頑張りを確認でき、また、友達からも認められることでより一層クラスのみんのためになったという満足感を持つことができると思われる。

#### ○評価の工夫

係活動の振り返りカードの最後の項目「これからじぶんが気をつけようと思うこと」は、本時の最後に記入するようにしている。子ども達自身が係活動を振り返るだけでなく、友達の考えを聞くことで、自分では気づかなかったことに目を向けるようになると思う。また、振り返りカードを3学期の始めに子どもに返してこの学習をあらためて振り返らせ、以降の係活動に役立てていきたいと思う。

### 9. 本時指導の考え方

本時学習では、2学期の係活動で子ども自身や友達のがんばったこと、さらに係活動のときクラスのみんがこうしてくれたらもっとよかったことを発表する等して係活動を振り返る時間である。このことを通して、子ども自身のことに加え友達のがんばりや他の係のクラスへの働きかけに対するの自分の言動に気づき、今後の子ども自身の言動を考えることをねらいとしている。

始めに、事前に記入していた振り返りカードの中から、「じぶんのがんばったこと」を全員に発表させる。このことで、自身の係活動ののがんばりをクラス全体に知らせることができる。また、その時教師からも賞賛の声かけ等をするようにする

次に、振り返りカードの「がんばっていた友達」発表する。この時、できるだけ多くの子どもに発表を促し、一人の子どもが複数回言われることもよいというようにする。このことを通して、友達を認め合うという共感的人間関係を味わわせたい。

また、これら2つの活動を通して、各子ども2学期の係活動のがんばりを認められ自己存在感を味わうことができると思う。

さらに、「クラスのみんがこうしてくれたらよかったと思うこと」を発表する。この項目で一番多いのは「係が発表したりお知らせするときは静かに聞いてほしい。」ということである。このことは、係活動をしている時の多くの子ども達が感じているということを教師から伝え、クラスのみんが話を静かに聞くことがクラス全体として大切だということに気づかせたい。このことは、係活動で経験したことを振り返らせることで子ども自身のこととしてとらえられるのではないと思われる。

最後に、係活動の振り返りカードに、感想を書くが、本時の感想だけでなく、今後自分が気をつけていこうと思うことを書くようにする。また、このカードは、3学期の係活動の始めに子どもに返し、本時で考えたことや感じたことを思い出させ、その後の係活動につなげていきたいと考える。

### 10. 準備

- 教師・・・係活動の振り返りカード（内容を事前にチェックしておく）
- 児童・・・係活動振り返りカードを事前に記入する。

## 1 1, 本時の展開

学 習 活 動 と 内 容	生徒指導の視点に立った支援
<p>1, 本時のめあてと活動内容を知る。            (1) 係活動の振り返りカードを配り自分の書いたことを再度確認させる。            (2) 本時のめあてを確認する。            2 学きのかかりかどうでがんばったことやもう少しだったことをみんなで話し合おう</p> <p>2, 2学期の係活動で自分ががんばったことを発表しよう。            ○全員が自分の係でがんばったことを発表する。</p> <p>3, 係活動でがんばっていた友達のことを発表しよう。            ○手を上げて発表するが, 同じ友達のことでもよいことを伝える。</p> <p>4, 係からのクラスのみんながこうしてくれたらよかったことについて話し合う。            ①子どもの発表だけでなく, 教師からどんなことが多かったかを知らせる。            多かったこと            かかりのはっぴょうやお知らせの時しずかに聞いてほしい。            ②友達が係として発表したりお知らせをしている時の自分の行動を振り返るようにする。</p> <p>5, 本時のまとめをし感想を書く。            ○係活動の振り返りカードに本時の感想と今から気をつけたいことを書く。</p>	<p>○発表した子どもがクラスの人々に認められるように教師からも賞賛の言葉かけをする。            (自己存在感)</p> <p>○多くの子どもが友達のがんばりを認められるように, 振り返りカードに書いている内容によっては挙手していない子どもにも発表を促す。(共感的人間関係の育成) (自己存在感)</p> <p>○子どもに場面を思い出させるため, 係の友達の話や自分が係の時のことを思い出させ, これからどうしたらよいか考えさせる。            (自己決定の場)</p>

## 1 2, 成果と課題

本学級の児童にとっては, 友達と話し合っ取り組む係活動であり, 最初は活動の仕方に戸惑ったり何をしてよいか分からなかったりする子もいたが, 徐々に活動の仕方が定着し, 時間がたつに従って積極的に取り組みようになり, 係活動を楽しみにするようになった。

このような中, 係活動の自分のがんばりや友達のがんばりを認め合うような振り返り活動は, 係活動での達成感やクラスの役に立っているという有用感を感じ自己存在感を持つことができたのではないかとと思われる。特に, 友達のがんばりでは, 本人が意外な友達からほめられる場面もあり, 本人が驚きと喜びの表情を見せる場面も合った。

しかし, 子どもの中には係活動にあまり熱心でない子どももいるので, そのような子どもの意欲をどのようにして高めていくかが一つの課題といえる。

さらに, 「クラスのみんながこうしてくれたらよかったな」という項目を, 視点にして子ども自身の言動を振り返る葛藤場間を設けたが, 2学期という長期の内容だったので, 場面を絞って他方がよかったと思われる。この学習の後, 係の子どもが話す時に静かに聞こうとする子やまわりの子に話しを聞くように促す子が見られるようになったのは, 規範意識の高まった姿ととらえている。

しかし, 友達同士の考え方の違いからけんかになったり, 相手を傷つける言動などがまだ見られるので, そのような面にも目を向けていくことも必要と考える。2年生というということを考えるとSSTを繰り返し行って, 話しの聞き方や言葉の使い方などの基本的な人間関係の習得をめざすことも一つの方法であると思われる。

教師のカウンセリングマインドと生徒指導の三機能を含んだ活動を展開することで, 規範意識の高まりつながっていくと考えられる。